

令和7年10月10日

武豊町議会議長
石川 よしはる 様

議会だより特別委員会
委員長 谷川健一郎

議会だより特別委員会

行政視察報告書

1. 視 察 年 月 日 令和7年9月30日（火）～10月1日（水）

2. 視察調査項目・視察先 1日目：福岡県須恵町

- ① 議会だよりの編集について
- ② 動画配信（中継）について
- ③ SNSについて

2日目：福岡県添田町

- ① 議会だよりの編集について
- ② 常任委員会化について

3. 視 察 参 加 者 議会だより特別委員会委員：谷川健一郎、梶田進、松本万之、
石川よしはる、久野勇

随行：家田拓弥（議会事務局 副主幹）

4. 調査視察内容

1日目：福岡県須恵町

須恵町議会広報特別委員会稻永委員長、発行責任者である松山議長、他委員3名、事務局職員2名が参加し、視察調査項目についてご説明いただいた。ご説明いただいた内容は以下の通り。

議会だよりの編集方針と工夫：

- ・ 基本姿勢：議会・議員の活動を住民に分かりやすく伝え、住民参加を促すことを基本姿勢としている。
- ・ 掲載内容：住民関心の高い事案を優先し、審議結果だけでなく経過も伝える工夫をしている。
- ・ 編集方法：簡潔な記事・見出し、行政・議会用語の解説、写真・余白活用、フルカラー印刷を活かしている。
- ・ 特徴：表紙には子どもたちの笑顔の写真を採用し、町内団体との対談特集、議員個人の顔写真と氏名を掲載した一般質問記事、地元出身イラストレーターによる4コマ漫画などを掲載している。

動画配信について：

- ・議会活動への住民関心向上を目的として、定例会・臨時会のライブ配信および録画配信を行っている。
- ・全て専門業者に委託することで、議員や事務局の負担を軽減している。
- ・YouTubeは広告の関係などもあるので利用していない。
- ・今後の課題として、満足のいく視聴数ではなく、費用対効果の評価や視聴者数増加の工夫を検討している。

住民からの反響：

- ・議会だよりや動画配信について様々な意見が寄せられており、議会としてアンケート調査を実施し、今後の改善に役立てる予定である。
- ・町公式Lineを使った議会告知が、住民からの反応が良い。

●主な質疑応答

Q：議会だよりの編集委員会はどのような構成になっていますか？また、各議員の役割分担はどのように決めていますか？

A：編集委員会は、定員7名（現在は6名）の委員と議会事務局で構成されています。各議員の役割分担は、初回委員会でレイアウトを決め、それに合わせて分担しています。

Q：編集のルールは定めていますか？また、読者の関心を引くために、どのような企画や工夫をされていますか？

A：独自に作成した編集マニュアルに準拠しています。表紙には子どもたちの笑顔の写真を採用し、町内団体との対談特集や地元出身イラストレーターによる4コマ漫画などを掲載しています。

Q：企画から校了、発行までのスケジュールと、各段階での注意点や課題は何ですか？

A：定例会前に取材を行い、本会議後に原稿を執筆。印刷業者との調整や複数回の校正を経て、約40日間で発行しています。

Q：発行後、住民からの意見や感想はどのように収集していますか？また、その意見を次号に反映させるための仕組みがあれば教えてください。

A：議会だよりにQRコードを掲載し、アンケート調査を実施しています。また、住民との対話集会などを通じて、直接意見を収集しています。

Q：動画配信の費用対効果について、どのように評価し、視聴者数を増やす工夫をされていますか？



A：全て専門業者に委託し、議員・事務局の負担を軽減しています。視聴者数を増やすための工夫や、費用対効果の評価は今後の課題です。

2日目：福岡県添田町

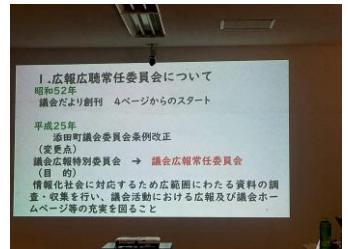
広報広聴常任委員会池口委員長はじめ委員3名、事務局職員2名が参加し、視察調査項目についてご説明いただいた。ご説明いただいた内容は以下の通り。

議会だよりの編集：

- ・任期中に全議員が関わるように2年で交代するなどルール化されており、編集マニュアルを作成し、委員が交代してもスムーズに引き継ぎができるようにしている。
- ・中学生にも理解できる文章や、読みやすい大きな文字を使用するなど、分かりやすさを重視している。

常任委員会化：

- ・継続的な活動のためには常任委員会化が不可欠との結論に至り、平成25年に条例を改正し、平成26年から施行された。これにより、計画的な活動や予算確保が容易になった。
- ・広聴もセットで行うことで、町民の声を町政に届けやすく、また紙面の構成も広聴の内容を反映できる。



●主な質疑応答



Q：議会だよりの編集方針やマニュアルについて教えてください。

A：中学生にも理解できる文章、大きな文字の使用など、読みやすさを重視しています。独自マニュアルで引継ぎを円滑化しています。

Q：広報委員会の常任化に至った経緯と、その主な効果は何か？

A：広報活動の継続と質の向上を目的とし、平成25年に常任委員会化。これにより、計画的な活動と予算確保が容易になり、活動の幅が広がりました。

Q：議会だよりの表紙や取材対象者はどのように決定しているか？

A：副委員長が提案し、委員会で決定することが多い。表紙は横構図や縦構図にこだわりはないが、写真撮影時は許可を得ています。

Q：受賞した特集記事（BRT関連）の経緯は？

A：鉄道不通後のBRT導入という住民関心の高いテーマを、沿線自治体と連携し追跡取材したものです。

Q：動画配信は誰の発案で、どのような体制で運用しているか？

A：元気な議員の発案で始まり、本会議全てを載せる予定で進められました。現在は専門業者に委託し、議員や事務局の負担なく運用されています。

5.各委員所感（武豊町に活かせること等）



谷川健一郎委員長：

今回の2日間にわたる視察を通じて、議会だよりの編集におけるマニュアル化の重要性と、読者目線に立った継続的な改善の取り組みを学ぶことができました。須恵町では、「賞を取るために議会だよりではない」という信念を感じ、また、議員全員で広報の研修や、議案審議の質を向上させるために、質疑終了後に反省会をしているとのことで、個々の能力向上に取り組まれているところが参考になりました。添田町では、住民インタビューや広聴活動の成果を丁寧に紙面に反映させることで、議会への関心を高め、信頼関係を築く努力が見え、両町の取り組みは、我々が目指す「伝わる広報」のヒントとなります。

今後、時代に合わせ、開かれた議会を目指すためにもYouTube等の動画配信は必要であると感じます。ただし、費用対効果や効果検証に課題があることも理解できましたので、まずは小さく始めるのが妥当だと思います。このようにSNSや動画配信など多様化する情報発信の在り方へ対応するため、より継続的な取り組みが必要であると感じました。議員個人の能力に頼るだけではなく、議会全体として能力向上を図り、社会の流れについていくためにも常任化を行い、一層の調査研究が必要であると考えます。



梶田進委員：

●須恵町：①議会だよりの編集：1. 詳細な内容を持った「編集方針」が作成されており、それに基づいて編集作業が行われており、委員が交代しても編集内容が継続される点は、武豊町も採用すべきである。2. 表紙の写真は、将来の議会だより読者になる「子ども」としており、有意義であると思った。3. 町出身のイラストレーターによる4コマ漫画が掲載されているのも、ユニークであった。②映像の配信方法：LIVE配信（生配信）とVOD配信（録画配信）を定例会（臨時会）の本会議のみの配信であった。配信の費用対効果（視聴者数）を評価することが困難なようであった。③SNSについて：各議員の責任でSNS発信は、具体的な規則に基づいて実施されないと、大きな問題を引き起こす可能性があるのではないかと思われた。

●添田町：①受賞紙について：1. 表紙のテーマに基づいた写真であり、裏表紙の記事との関連性をもたせている。テーマに対する「声」も記事にしていることで、結びつきが強く感じられる記事となっている。2. 近隣市町と連携した記事の掲載は特徴的であった。3. しっかりした作成マニュアルをもって、広報誌作成を行っている姿勢が見受けられた。

②常任委員会化について：特別委員会が異であり活動内容から常任委員会にされた。その為の議論が活発に行われた雰囲気が伝わってきた。



松本万之委員：

●須恵町：議会だよりについて・・・まず表紙の写真を近年から園児？～児童にスポットを当てて自然体での撮影を工夫されている。→名カメラマンの存在。以前複数の後方に人物があつてクレーム（苦情）もあり一人を大きく撮っていく様に変更された。又、写真該当の児童や園児の保護者への記載確認（肖像権）をとっていて無断ではされていない。以前は、女性で強い発言力（熱量）で議会だよりで賞を取りにいくための作成を目指されている方がみえたともお聞きしました。

一般質問では、各議員の質問時のあるままの姿を搭載され臨場感がある姿に見受けることができる。議会だより「すえ」237号について、皆様の声をお聞かせ下さい。と記載されていて、読まれている方にも知恵を拝借され、より親しみやすい議会だより「すえ」を目指されている。

議会だよりの配布先も武豊町と同様に組合（自治会）加入者へで、そういうものかな～と思いました。町民の方に、議会活動に興味・関心を持つてもらうため定例会ごとにチラシを作成され公式LINEで積極的に配信もされている。

●添田町：議会だよりについて・・・個別にした質問事項で表紙が縦横とランダムにされていて特に決まっていないとの回答へ。議会だよりの経費削減か？カラー記載が少なく白黒写真等が目立つ。

今回の須恵町は「未来予想図カフェ」添田町は「住民と議員のカタリ場～未来会議～」昨年総務企画委員会で向かった先の兵庫県太子町は「カフェトーク」などで武豊町の「住民対話集会」もそろそろソフトなイメージの名称変更がどうかな～と感じました。



石川よしはる委員：

●須恵町：

①議会だよりの編集について：

- ・議会マニュアルが作成され、編集方針・広報の目的・作業内容を明確にし、意識の統一と標準化がしっかり図られている。
- ・編集委員の選定を各常任委員会からの選出は参考になる。

- ・作業分担を明確にされていることは、大切である。

- ・表紙に子供をもつてくることは是非取り入れるべき。

②議会映像配信方法について：

- ・しっかりした映像機器の整備はうらやましいかぎり。
- ・不規則発言等も流れる可能性があるが、今まで、そのようなことはなかった。

③議会SNSについて：

- ・町公式LINEでタイムリーな議会の録画配信の情報発信で、大幅に視聴者が増えた。
- ・是非、取り入れてみたい。

●添田町：

①議会だよりの編集について：

- ・議会広報作成マニュアルがしっかり作成されている。
- ・誰が編集しても同じレベルを目指している。

- ・中学氏江でも理解できる文章は大切である。

②常任委員会化について：

- ・本町でこれまで懸案であった議会だより委員会の常任化平成25年に反対意見なくできたことは、見習わなければならない。

- ・時代の流れについていくうえで、常に、研鑽が必要で、常任委員会になって毎年視察することは、重要である。



久野勇委員：

●須恵町：

①議会だよりについて：

- ・構成メンバーは武豊町も常任委員会から均等に選任した方が、進めやすいと思う。

- ・また任期は2年で改選したが多くの方が携わる事が出来るので良いと思う。

- ・発行プロセスの中では、掲載記事は、議会だより委員が独自判断で掲載している。所管への確認は無いが武豊とはやり方が違うが今後、どの様にするか検討すべきと思う。

②動画配信について：

- ・一気には進められないと思うので、一般質問のみの配信から始めたらよいと思う。経費削減の観点から、現在配信のCCNC一般質問データーを利用したらどうか。

●添田町

常任委員会化について：

- ・常任委員会化が自然であると思うが、仕事の範囲を細かく決める必要（例えば住民対話集会の担当は？）があるし、構成メンバーも検討の必要がある。